

1. 調査報告概要表

作成日 2008年9月16日

【評価実施概要】

事業所番号	2170200592		
法人名	医療法人社団 智徳会		
事業所名	グループホーム福寿の里 寿荘		
所在地 (電話番号)	〒501-3908 岐阜県関市寿町1-1-23 (電話) 0575-25-2511		
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1 はしま福祉サポートセンター内		
訪問調査日	平成20年8月23日		

【情報提供票より】(20年7月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	12 人	常勤 12 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	5.5 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	22,500 円	
敷金	有() 円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有() 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(7月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	8 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.5 歳	最低	70 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	中濃厚生病院 真鍋内科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム福寿の里 寿荘は国道から少し離れたところに位置し、同じ敷地内に医院を中心にデイサービスセンターが併設されている。ホームの利用者は車椅子利用者がほとんどで、組織母体の医院でリハビリを受けたり、入浴では機械浴を利用するなど、安心したケアの取り組みがなされている。母体が医院であることへの利用者、家族の安心と信頼は大きいですが、職員や利用者の異動が多く、家族としてまた、生活の場としての機能は十分とは言えない。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>理念について見直しはなされているが職員間の共有がない。地域とのつきあいについては十分とはいえないが現状でできる働きかけの努力がみられる。食事を楽しむことに対しては併設施設で作った食事を利用するのを止め、ホームの台所で食事を作って楽しめる取組みがなされている。全体的にみて職員の異動が多く、落ち着いた環境でのサービス提供ができないため職員が協力して課題への取組みができない状況である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員の異動が頻繁で職員に意義を十分伝えることができなかったが管理者はできることから改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>市の担当者からボランティアの情報など様々な情報を提供してもらうことができサービスに活かしている。民生委員、社会福祉協議会などとの関係は作られており以前の市の担当者の協力もあって相談する関係ができています。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>3~4ヶ月毎の不定期ではあるが会報を利用したり、2, 3割の家族の方が訪問するので、その際に利用者の暮らし振りを伝えている。利用者の家族から直接、職員に様々な意見、苦情を言える関係がある。第三者委員も設置されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ほとんどの利用者が車椅子のため、職員が車椅子を押すことになり、外に出かけることが事実上困難な状況である。それでも職員が外出した際には近所の方に挨拶をするなどして地域の方との関係作りに努めている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスを念頭に「一人一人の人格と個性を尊重し、一人一人の能力に応じた介護を提供します。」という理念が掲げられ、見直しがされている。	<input type="checkbox"/>	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の見直しを急いだためか管理者、職員等の参加がないものであり、出入り口等に掲げられている以前の理念と食い違いが見られる。そのため新しい理念は職員間で共有されていない。	<input type="radio"/>	理念は目指す介護のあり方を共有してこそ協働することができるものである。早急に理念を共有することを希望したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ほとんどの利用者が車椅子のため、職員が車椅子を押すことになり、外に出かけることが事実上困難な状況である。それでも職員が外出した際には近所の方に挨拶をするなどして地域の方との関係づくりに努めている。	<input type="checkbox"/>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の異動が頻繁で職員に意義を十分伝えることができていない。その状況でも管理者はできることから改善に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>	
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的開催されている。市の担当者の異動もなくホームの活動に理解があり、協力的である。ボランティアの情報など様々な情報を提供してもらうことができ、サービスに活かしている。	<input type="checkbox"/>	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	民生委員、社会福祉協議会などとの関係は作られており以前の市の担当者の協力もあって相談できる関係が作られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	3～4ヶ月毎の不定期発行ではあるが会報を利用したり、2～3割ではあるが訪問する家族へ利用者の暮らし振りを伝えている。	○	会報は利用者の暮らし振りを伝える有効な手段の一つではあるが、管理者一人の担当では定期的な会報を作ることは困難と思われる。職員を巻き込んだ体制で取り組むことを検討していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族から直接、職員に様々な意見、苦情を言える関係がある。第三者委員も設置されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	諸事情によると思われるが利用者の系列ホーム間の移動と職員の異動が続き、利用者のダメージが推測される。	○	職員の異動は最小限に抑えることで利用者と職員の穏やかな関係づくりを期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基本的には管理者が現場での教育に当たっている。具体的には職員の様子を見て必要な技術の教育を行ったり、関連の図書の提供をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に参加することで情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現段階ではサービス利用する前にホームを見学することも、利用者や職員と会う機会も設けていない。	○	安心して利用できるためにはサービス提供の前にホームの利用者や職員と馴染みの関係づくりは意義あることと思われる。できることから何らかのサービス利用の方法を検討していただけることを期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の時間や食後のくつろぎの場面などで利用者の話を聴いたり、歌を唄ったりしながら利用者の様々な思いを共有する努力をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護をしているときに利用者へ声を掛けたり表情を見ながら、思いを受け止めケアに反映するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心として介護計画が作成されている。しかし、職員ミーティング等での検討がされず共有が十分とはいえない。	○	利用者一人ひとりに合ったサービスの提供は介護計画の共有は欠くことができないと思われる。介護について職員が検討する場を定期的にするよう期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	体調の変化などが見られると病院への入院を中心に速やかな対応がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人の医療連携を生かし、リハビリによる機能回復を目指した支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の同意を得た上で母体法人医院がかかりつけ医となっている。また、2週間に一度往診してもらうことで適切な医療を受けることができている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期については入居時に説明し、家族の意向を聞いている。また、指針としても明文化されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一人ひとりの対応にばらつきはあるが、管理者の指導により改善されている。記録などは事務所に安全に保管されている。	○	トイレ介助等について、利用者の羞恥心に配慮し、ドアを閉めるなど、さりげない支援が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの希望やペースに合わせた支援に至っておらず、どちらかと言えば職員ペースになりがちである。	○	職員は利用者のリハビリ、入浴、食事作りと時間に追われる現状である。利用者とはゆっくりとした時間を共有できる工夫が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昨年の評価の改善課題を受け、併設施設で作った食事を利用するのを止め、ホームの台所で食事を作るようになった。ホーム内に調理する音、匂いが漂い心地良い。できることから取り組む管理者、職員の姿勢、努力がみられる。	○	職員は、ホームの家族として、同じものを、一緒に食べることの大切さを理解し、職員一人からの参加の検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のほとんどが車椅子を利用しており、併設のデイサービスの機械浴を利用している。入浴回数や曜日の制約はある。	○	ホーム内設置のお風呂は全く使用されていないが、今後使用可能な方には利用できるような工夫が望まれる。又、失禁、下痢の際の下半身の洗浄等への利用も期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	重度の利用者が多いため、役割、楽しみごと、気晴らしの支援が困難である。併設のリハビリに通うことを楽しみにしている利用者もいる。	○	入所時、利用者の生活歴などを詳しく調べ、記録に残し、ケアに役立てた支援が望まれる。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族が外へ連れ出す以外、職員が利用者連れて日常的に外出することは無い。	○	何らかの方法で駐車場、または裏の公園までの外出が望まれる。一週間に一度、一人づつからでもいいので交代で連れ出す工夫を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	近くに国道、一歩出ると通院の方の車が往来するなど危険なため、家族の同意を得て日中玄関には鍵がかけてられている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得て避難訓練を行っている。地域の協力体制についても運営推進会議で検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は記録に残し、栄養面については定期的に母体医院の管理栄養士に指導を受けている。水分補給も食事以外に、午前、午後に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く確保されている。車椅子が十分移動できるスペースがとられており、ゆったりとくつろぐことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の馴染みの家具や思い出の品が持ち込まれている。居室は車椅子でも十分動けるスペースがあり、洗面台が設置されており、常にお湯が使えるようになっている。		